

白山ふるさと文学賞

第一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生高学年作文の部 優秀賞

白山のすばらしい世界

松任小学校六年

東

拓宏

ひがし

たくひろ

受賞の言葉

白山に登ったことで作文を書いて、優秀賞をとったと言われた時はすごくうれしかった。白山の魅力を改めて感じてもらえたんじゃないかと思う。この作文を読んで、白山に行く人が増えたら、もっとうれしい。

最初、白山に登る前の時は、いやな気持ちの方が多かったような気がする。前に白山に登って、とても疲れたことや、二日目の起きる時間が、三時半と、とても早かったからかもしれない。初めに登ったときは、ちやんと頂上について下山できたので、今度も登れる自信はあったのだが、やはり、いやな気持ちの方が多かった。その一方、高い山なので、ふしぎな生き物がいるかもしれない、星がたくさん見れるだろう、そんな楽しい気持ちもあった。そんな複雑な気持ちの中で、二回目の白山登山のぞんだ。

別当出合を出てすぐ、初めの休けい所の中飯場で、かつ先生が、このへんの高い山には、ヒメオオクワガタがよくいるという、ぼくの期待に応えるかのようなことを言ってくれた。残念なことに、その時、ヒメオオクワガタはいなかったが、こんなうれしいニュースから登山を再開した。さらに進むと、小さな池があり、その中にクロサンショウウオの子供がいた。サンショウウオは、とてもめずらしい両生類で、形もおもしろく、白山がすごい山であることを改めて実感した。その後も、アサギマダラや、たくさんの高山植物、さらに、生き物ではないが、なんと、恐竜の足跡の化石を発見、大きさは二十センチはあり、そんな大きな足をもつ恐竜が、千五百メートルをこすところにいるという事実には、とてもおどろくと共に、白山はすごい山だと、さらに実感した。

たくさんの生き物や、高山植物などを見て、さらに進むと、一日目の宿泊しせつ、室堂に着く。標高二千四百メートルの室堂から白山頂上、御前峰に行く。二日目の朝、ご来光を見るため、かなり早めに起きなければならなかったが、早く起きたために、言葉では言い表せないほどのすばらしいものを見ることができた。数えきれないほどの、とてもたくさんの星だった。白山に登る数日前に、プラネタリウムで星を見て、こんなたくさんの星が見れるわけがないと思っただが、プラネタリウムでも見えなかった星もたくさん見れた。夏の大三角は、まぶしいほどしっかりと見え、たくさんの星座もくっきりと見えた。それを見た後に、頂上に登ってご来光を見たが、ご来光を見るために早く起きたんじやなく、星を見るために早く起きたんだ。そう思えるくらい、きれいでたくさん

の星空だった。

たくさんの星空を見た後、暗いのでヘッドライトをつけて、白山頂上、御前峰への登山を開始した。一気に室堂から御前峰へ登るので、やはり疲れたが、ところどころ、小休止をとって、友達や先生とはげましながら、頂上へ登った。頂上へ着くと、先生から、がんばったね、おつかれさまという言葉ももらった。自分では、ただ、やった、登ったという思いがこみあげてきた。そして、一人もだつ落者が出ることなく、無事、全員が頂上へ着いた。雲で少し見えないところもあったが、きれいなご来光が見えた。太陽が出てくると、暗かった景色も見えるようになるので、となりの別山や、アルプス山脈が、きれいに映って見えた。雲やきりが少しあったので、富士山は見えなかったが、写真では見れない、頂上へ着いた人だけが見れる、暗やみから赤くそまり、だんだんと水色へ変わっていく、すばらしい景色だった。頂上では最後に、みんなでヤッホーと大声で言った。すると、むこうの山から、とても低い声でヤッホーと返ってきたので、おもしろくて、もう一回みんなでヤッホーと言った。美しく、おもしろかった白山の山頂だった。

別当出合、室堂、山頂とめぐって下山して、再び別当出合についてきたとき、足がとてもいたくなっていた。足だけでなく、他のところもいたかったのだが、心の中は、喜びの気持ちでいっぱいだった。まず、西日本で最も高い山、日本三名山にも選ばれているきれいな山、白山にまた登れたということがうれしかった。次に、たくさんの生き物や星空を見ることがうれしかった。下山する時も、友達と話したり、いろんな生き物を見つれたり、先生達が応えんしてくれたり、つらいことだけではなかった。最初登ることがつらく思っても、下山後は、足がいたいことなんかより、登れたという感動の方が大きかった。白山は、つらい山ではなく、美しい景色が見れたり、生き物がいたり、素晴らしい山だ。でも、登らなかつたら、その感動は分からないので、どんな人でもまず一回登ってみると、白山のよさが味わえると思う。下山後の白山は、前よりきれいに見えた。